

令和8年度 市長との対話集会（加斗地区） 議事要旨

日 時：令和8年6月26日（金）19時30分～21時00分

場 所：加斗コミュニティセンター

参加者：9名

テーマ：「サバ缶、宇宙へ行く」のその先へ ～小浜の挑戦から考える学びとブランドづくり～

1 参加者からの主な意見

(1) 地域資源（鯉川シーサイドパーク等）の有効活用

- ・鯉川シーサイドパーク等の施設を、キャンプやバーベキューなどのレジャー目的で有効活用する。
- ・青島などの景観の良い自然環境をアピールし、観光客を誘導する取り組みを進める。

(2) インフラ整備と企業誘致による財源確保

- ・高齢化に伴い、高齢者が利用しやすいデマンドバス等の生活インフラを導入する。
- ・小浜西インターのアクセスを活かし、工場（遊休農地）やレジャー施設運営会社（鯉川シーサイドパーク）などの企業誘致を行い、自主財源を確保する。

(3) 教育を中心とした移住・定住促進

- ・市外からでも自然豊かな小規模校に通える小規模特認校制度の活用や、若狭湾青少年の自然の家など等と連携した「教育メインの呼び込み」を行う。
- ・少子化対策として、移住者や子育て世代が定住しやすい環境を整える。
- ・大学・専門学校の誘致、カルチャースクールの充実により、「学生街」のような魅力あるまちづくりを目指す。

2 市長からの主な回答

(1) シーサイドパーク等の活用と「稼ぐ仕組み」の構築

- ・現状の「バーベキュー等をしてよいか分からない」という課題に対し、利用ルールの明確化や管理体制を含め、「稼ぐ仕組み」を構築していく必要がある。
- ・地域がキャンプ場等で活用したいというアクションを起こすことが重要。市としても運営を行う企業の誘致活動を行うなどの後方支援が可能である。

(2) 交通アクセスを活かした企業・レジャー誘致

- ・小浜西インターチェンジがある強みを活かし、工場誘致や鯉川シーサイドパーク等を運営するレジャー関連企業の誘致を行うことは、地域の活性化や財源確保において非常に効果的である。

(3) 小規模校の強みを活かした教育と移住促進

- ・地域との距離が近く、自然を活かしたハイレベルで特色ある体験教育が可能である。
- ・小浜の特色ある教育の魅力発信と小規模校ならではの教育環境の価値を高めることで、移住の呼び水となる可能性がある。そのために、地域ぐるみの受け入れ体制づくりが重要である。